【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和　６年度学校評価 結果

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖北小学校
1　前年度 評価結果の概要	・中間評価をもとに、取組をさらに推進させることで、目標に近づくことができた。来年度も振り返りを生かして取り組んでいきたい。 ・教科「日本語」やコミュニティ・スクールの取組のについての周知が不十分であることが分かった。学校だよりや学校ホームページ、マチコミを使って取組を広く知らせていきたい。 ・コミュニティー・スクールとしての取組が軌道に乗ってきている。学校運営協議会とともに様々な行事を企画し、実施していきたい。
2　学校教育目標	豊かな心を持ち、個性に富み、たくましく生きる児童の育成
3　本年度の重点目標	**①子どもの心を鍛える　②子どもの学びを鍛える　③子どもの体を鍛える　④教師力を磨く　⑤共に育てる**

4　重点取組内容・成果指標　／　**中間評価**　／　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間で成果指標を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・成果指標の成果指標を達成できたと自己申告する教師は85%。	A	・学力向上対策シートの成果指標を達成できたと実感できた教師は85%だった。学力向上を図るための日々の実践の積み重ねがあった。 ・校内研究の主題が変わったことを刺激材料としながら、授業実践を核にして継続的に取り組むことができた。	A	毎年、新しい課題を見つけて取り組んでほしい。家庭学習の必要性を保護者に啓発するべきだ。	教務主任
	○読書活動の推進	○読書量平均一人 70冊以上（低学年） 60冊以上（中学年） 50冊以上（高学年）	・図書委員による図書館祭りや各学年のおすすめの本を提示するなど児童への啓発活動を進める。 ・読書週間にファミリー読書を推奨し、読書の習慣化を図る。	A	・「本をよく読んでいる」と答えた児童は80%以上であり、読書する習慣は身に付いていると言える。図書委員会が行ったおすすめの本紹介や図書館祭りなどの活動でさらなる習慣化が期待できる。	A	・「本をよく読んでいる」と答えた児童は80%以上であり、週に1回ある学級での図書の時間を中心に、本に慣れ親しむ児童が増えている。 ・ファミリー読書を実施しなかったが、図書委員のおすすめの本紹介や読書ビンゴなどにより、様々なジャンルの本を読むことができたと感じる児童がいた。今後、家庭での読書をすすめる取り組みが必要であると考える。	A	保護者が、小学校の時に出会った思い出の本を紹介してもよいのではないか。本好きの子どもが多い感じがする。新たに図書館システムの導入もあるので、今以上に利用してほしい。	図書主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・学級づくりや道徳科の授業づくりに関する情報共有等を行う。 ・友達のよさ見つけの実践を行う。	A	・「友達のよさを知っている」と答えた児童は90%以上であり、よさに目を向ける習慣はつきつつある。	A	・学級づくりについては、全職員に対する研修会を行い、授業中や特別活動における手立てなどを共有することができた。 ・「友達のよさを知っている」と答えた児童は80%以上であり、よさに目を向ける習慣はついてきているが、中間評価よりも下がっているので、継続していくことが必要である。	A	道徳科も定着してきたようだ。「よさ見つけ」で友達の良さを見つけることも大切だが、自分の良さを知っておくことも大切だ。	道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの定義について研修を行い、どのような行為がいじめに当たるのか理解を深める。 ・毎月10日の「鳥栖市いじめ・命を考える日」になかよしアンケートを行い、即日確認するとともに、チームで迅速に対応する。 ・毎週水曜日の「生徒指導打ち合わせ」において、生徒指導次項について情報交換と情報の共有を行い、指導や支援の方法について全職員で共通理解を図る。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていると肯定的な回答した教員は100%であり、事案に対してチームとして迅速に取り組むことができている。 ・生徒指導・教育相談の連絡会を毎週行うことで、情報交換と情報共有を行い、全職員での共通理解の上で指導支援が行われている。	A	・いじめをしない、させないように心がけている児童が95%で、いじめを許さない、見過ごさない集団形成ができている。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると肯定的な回答した教員は100%であり、チームでの対応ができている。 ・毎週の生徒指導・教育相談の連絡会では、情報交換と情報共有ができていて、全職員での共通理解の上で指導支援が行われている。	A	校内でのチーム体制ができていることは、素晴らしい実績だ。継続的な家庭への支援も大切にしてほしい。「いじめられた」子どもの視点で考えるべきだ。「いじり」や「じゃれ合い」も度が過ぎるといじめにつながることを理解してほしい。相手の表情に敏感になってほしい。	主幹教諭
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童が夢や目標をもつことができるような授業実践を行うとともに、実践についての情報を共有する。 ・キャリアパスポートを活用し、活動の見通しとふり返りを一体化して児童に意識させることで、児童が自己の成長に気付けるようにする。	A	・「様々な活動や行事で児童に目標をもたせて取り組ませるとともに、振り返りを行わせ成長を感じさせている。」と答えた職員が90%以上であった。	A	・「様々な活動や行事で児童に目標をもたせて取り組ませるとともに、振り返りを行わせ成長を感じさせている。」と答えた職員が95%以上であり、活動ありきではなく、どのような学びがあるかを考えながら実践できた。	A	児童だけではなく、教師も同じ目標で共に取り組んでいくことが大切だ。その時に気付いた課題を次につなげる取組をしてほしい。	特別活動主任
	○「笑顔であいさつ」「笑顔でありがとう」が言える児童の育成	●「笑顔であいさつができている」と回答した児童生徒80%以上 ●友達に感謝の気持ちを伝えていると回答した児童生徒80%以上	・6年生児童を中心に，朝のあいさつ運動を行う。 ・学校便りや学級通信であいさつの大切さ，あいさつ運動の取り組みについて紹介する。	A	・「元気よくあいさつしている。自分から進んであいさつしている。」児童が85%以上であった。	A	・「場に応じた返事をしたり、自分からあいさつをしたりしている」児童が88%であった。 ・全職員が、あいさつの大切さについて話し、子どもと一緒に実践することができている。	A	気持ちよく、明るい挨拶をする児童が多いと感じる。挨拶の大切さを伝えることをしてほしい。	特別活動主任
●健康・体つくり	❶望ましい生活習慣の形成 ❷望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ❸安全に関する資質・能力の育成	❶早寝早起きをしている児童90%以上を維持する。 ❷「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ❸児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・生活リズムアップ週間を実施し、学校・家庭の両面から、早寝早起きと朝ごはんを食べて登校する習慣を意識させる。 ・防犯ブザー点検を各学級で行い、所持する必要性について声掛けを行う。	B	・「早寝早起き朝ご飯」を毎日実践できている児童は80%程度であった。 ・好き嫌いせずにバランスよく食べている児童は8割以上であった。特に高学年では9割が実践できている。 ・交通安全教室や普段の下校指導等を通して、児童の安全意識を高めることができている。9月時点では、児童の交通事故0が達成できている。	A	・「早寝早起き朝ご飯」を毎日実践できている児童は80%程度であった。 ・児童がバランスの良い食事をするために、食育の推進を意識した給食指導が88%以上のクラスで行われている。 ・地域で大きな事故が起きたこともあり、見回りや声かけを増やした結果、職員や児童の安全意識を高めることができた。大きな事故の報告もなく、児童の交通事故0が達成できた。	A	少しずつ成果が現れているようだ。引き続き指導をお願いしたい。	❶生徒指導主任 ❷食育主任（校外） ❸安全教育主任
	○運動習慣の改善や定着化を目指した教育活動	運動やスポーツが好きだと感じている児童生徒90%以上	・週に1回以上各学級でレクレーションの日を設定し、運動する機会を増やすようにする。 ・全校児童を対象としたスポーツ大会を実施し、運動を楽しく感じるような取り組みをする。	A	・運動やスポーツが好きだと思っている児童が全学年で90%を超えており、全校でも94.1%だった。 ・1学期に各学年で「ドッジビー大会」を実施し、全校児童のほとんどの子が参加した。また、参加できない児童は応援をしていた。	B	・運動やスポーツが好きだと思っている児童が、低学年は90%を超えていたが、全校では88.0%で前期と比べて減っていた。調査が12月で、寒くなってきたことや体育の授業で苦手な種目が多かったことが原因だと考えられる。	B	昼休みのクラスレクの取組はとても良いと思う。地区スポーツ協会としても、児童に向けて何らかのアプローチをしていきたい。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務記録により勤務時間の意識化を図る。 ・定時退勤日を設定し確実に実行する。 ・業務の精選を行う。	A	・職員に毎日施錠時刻の30分前に呼びかけ、業務を計画的にに進めるようにできた。学期、時間外勤務が月80時間を超える職員は1人もいなかった。定時退勤日は17:30退勤を徹底することができた。	A	・全職員が退勤時刻の18:30を意識し、決まった時刻に学校を施錠できた。また、金曜の定時退勤日には、全員が17:30前に退勤しており、ワークライフバランスを図ることができた。 ・夏季休業中には、朝方勤務を採用した。約半分の職員が朝型勤務を実施した。長期休業中には、積極的に年休を消化でき、年間を通じて10日以上取得が90%達成できた。	A	先生方の心と体の健康は大切だ。素晴らしい実績だ。体調を大きく崩す前に、上司や同僚に相談ができる環境をつくってほしい。	教頭
	○ICT機器の活用	○ICT機器を授業や業務に活用できている職員の割合80%以上	・各種業務の文書のデータベースをつくり、活用できるように整備する。 ・ICT機器（PC、タブレット）を授業や業務に効率的に活用する。	A	・学年フォルダや校務分掌のフォルダーを整備することで過去のデータを基に事務処理をすることができた。校務用PCや電子黒板、タブレットを活用した授業を多くこができた。	A	・校務サーバー上に分掌事務や学年のフォルダーを機能的に配置することで、これまでのデータを活用できている。 ・紙ではなく端末によるでアンケート回答にすることで、集計業務の効率化を図ることができた。また、タブレットを使った調べ物など、幅広く活用できた。	A	デジタル化が教師の負担増にならないようにしてほしい。児童の「分からない」を安易に調べさせることは控えてほしい。	教頭
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○通常学級と特別支援学級で連携した交流及び共同学習の実施率100%。 ○特別支援に関する専門性と意識が向上した教員80%以上	・障害理解や通常学級での特別支援に関する研修会を行い、専門性の向上を図る。 ・保護者と合意形成のもと個別の教育支援計画を作成し，合理的配慮を実施する。 ・個のニーズに応じた交流及び共同教育の実践を行う。	A	・前期に2本の全職員対象の研修、1本の特別支援学級対象の研修会を実施した。 ・個別の教育支援計画と指導計画作成対象者の見直しを実施し、100%作成済。	A	・学年部や支援部内での連携した支援体制での合理的配慮の提供は様々な形で実践することができた。 ・個別の教育支援計画の情報共有や活用をすることで教員の80%以上が専門性と意識が向上することができた。	A	今後も校内・校外の支援体制を活用して、児童の多様性に対応してほしい。鳥栖市では、「共に学ぶ子ども条例」がある。個のニーズに合った教育と学校生活が行えるよう今後もサポートしてもらいたい。	特別支援CO

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・教科「日本語」の実践内容について、学年通信で学期に1回紹介する。 ・児童の取り組みや感想等を、学級通信等で学期に1回以上伝える。	B	およそ6割の教員が教科「日本語」の実践内容について学年通信や学級通信で保護者に知らせることができた。今後も教科「日本語」について保護者へ情報公開することを促していく。	B	8割の教員が教科「日本語」の実践内容等を学年通信等で紹介することができていたが、情報または授業公開率を増やせるよう引き続き促していきたい。また、「11月24日は和食の日」についての教員資料を配布し、児童への指導や通信に載せる機会を提供できた。今後もこのような機会を利用し、教科「日本語」の実践充実を図っていく必要がある。	A	幅広く実践されていることが、児童の将来に生かされることを願っています。また、保護者に方には国語との違いがあまり理解されていない。	教科「日本語」主任
○学習への意欲の充実	○学習活動における人権意識の向上	○授業において、児童の人権意識が向上する「学び合い」を入れていく。児童による意思表明と、それに対する同意や称賛の割合50%以上	・学習活動において、指名やグループ発表などを通して、児童の意思を表明する機会を確保する。 ・児童同士が意思表明や同意、称賛などを行うことを通して、自己肯定感や自尊心を高める機会を設ける。	B	・「自分の思いをもち、自分なりの方法で伝えることができる児童の育成」を研究テーマに、各学年グループにおいて、設定した教科・領域の授業の中で、教員は児童の意思を表明したり、自己肯定感や自尊心を高めたりする機会を設け、児童への手立てを取っている。	A	研究テーマに沿い、各学年グループにおいて、それぞれの課題に合った教科や目標を設定し、手立てを講じるアプローチができていた。約95%以上の職員が、校内研究のテーマを意識した授業を行う中で、児童の自己肯定感や自尊心を高める手立てや、前研究「学び合い」から、相手を尊重する授業の雰囲気が高まってきており、手応えを感じていることが考えられる。	A	貴校の教育活動全体に人権意識が広がっていると感じます。自分の意見を伝えることは重要だ。何も言えない同調圧力が働かないようにしていただきたい。	研究主任 人権同和主任

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・中間評価をもとに取組をさらに推進させるで、目標に近づけることができた。学力向上対策においては、校内研究とうまくリンクができ推進できた。 ・いじめの早期発見、早期対応においては、1人で抱え込まず、報告・連絡・相談がしやすい雰囲気ができており、管理職を含めた組織的な対応ができた。 ・昨年度よりコミュニティー・スクールとしての取組が軌道に乗っている。学校運営協議会を中心にした各種団体との組織も整ってきている。これからは、保護者に向けての啓発活動を行っていきたい。